コミュニティセンター報 かわと

JANUARY

第196号
2022. 1. 7

実践目標　「心豊かな住みよい地域づくり」
キャッチフレーズ
～花ひらく・夢ひらく・やすらぎのまち～

発行　川跡コミュニティセンター
TEL 21-0694　FAX 21-0724
E-mail: kawato-cc@local.city.izumo.shimane.jp
ブログ　川跡コミセン公式ブログ　検索　随時更新中

川跡地区の現況（11月30日）

		先月比較
世帯数	4,095世帯	（＋20）
人　口	10,286人	（＋31）
（男）	5,033人	（＋21）
（女）	5,253人	（＋10）
中野町	1,338世帯	3,265人
武志町	818世帯	2,122人
荻杼町	594世帯	1,430人
稲岡町	480世帯	1,189人
高岡町	865世帯	2,280人
面積	５．４㎢	

令和４年１月７日発行

「新年に思うこと」

コミュニティセンター長　花原良治

皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申しあげます。

昨年のコミセン事業は、コロナ禍ではありましたが、事業委員会専門部の皆様が、新たな取組や工夫をしてくださったことで、少しずつですがにぎわいを取り戻せたように思います。ありがとうございました。

さて、川跡コミセンの実践目標は、「心豊かな住みよい地域づくり」です。この目標を達成するための課題と取組を「ふるさとづくり」と「過疎化への懸念」の視点から考えてみたいと思います。

○ふるさとづくり

・川跡地区の生みの親である斐伊川の魅力の再発見や増加している若い世代の想いを反映した、自慢できる魅力あふるるふるさとづくりの推進が望まれます。

・隣保を核とした共助の仕組みづくりが必要です。その基盤である他者を思いやる心の連鎖づくりが必要です。誰かに見守られているという安心感があるまちづくり。

○過疎化への懸念

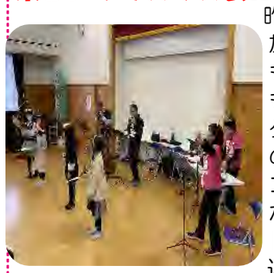
・川跡のまちを支える世代（分母）が減少していきます。一万人（分子）を超える人口ながら、まち機能の維持の視点からみると今の分母では支えきれなくなる時、過疎化が懸念されます。

・自治協会への加入の有無と川跡住民としての責任を果たすことは別であることを啓発していく大切さを痛感しています。特に生活環境維持の視点から。

「心豊かな住みよい地域づくり」が机上の空論にならないよう、取り上げた課題に関心をもってもらうための取組として実践していきたいと思います。

ご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

楽しいクリスマス会 12/19　187名



昨年はコロナ感染の影響で子ども達だけの参加で開催しましたが、今年は保護者、弟妹も一緒に187名の参加で行いました。今年も１年生から６年生まで１３名の子どもスタッフが司会進行をしてくれました。最初のお楽しみは『ゆるりー』さんのオカリナコンサート。みんながよく知っている曲ばかりだったので一緒に歌って楽しいコンサートでした。珍しい楽器の優しい音色に引き込まれていきました。今年もお父さんサンタさん(鎌田健太さん、杠 直門さん）のビンゴ大会や、全員で大プレゼント回し。今年もプレゼントの周りを子ども達が回りました。女の子の輪は大ホールいっぱいの大きな輪でした。大盛り上がりのクリスマス会でした。最後にスタッフの皆さんからクッキーのプレゼントを頂き満面の笑顔で帰っていきました。

かわとチャレンジ広場

日本バレーボールリーグ男子出雲大会(会場：カミアリーナ)にチアダンスが出演しました。元気いっぱいのダンスに会場からも大きな拍手で応援していただきました。試合終了後は選手の皆さんと記念撮影もできて嬉しさいっぱいの子ども達でした。大きな会場で自信もつきました。

鎌田厚由さん（荻杼第三）

おどり葉牡丹　右上・下
黒目正司さん（武志鹿島）

土江道子さん
（武志第一）

「県道出雲平田線改築事業竣工 交通安全祈願祭・竣工式」

県道出雲平田線（約８．８㎞）のうち、大津小学校から北神立西詰路線橋下までの間（約１．６６㎞）が歩道付片側一車線の二車線道路に改築竣工し、令和３年１２月２５日に交通安全祈願祭並びに竣工式を執り行いました。

県道の整備につきましては、平成１９年２月９日に大津・川跡両地区の自治協会・土木委員会等合同で「県道出雲平田線改良促進協議会」を立ち上げ、県道の改良促進を図るべく働きかけてきましたが、結成してから１４年目に全線の一部が完工したことになります。

残る県道の斐伊川土堤までの間、及び県道を北に進めば令和６年５月に完成予定である出雲市新体育館に至る市道鳶巣川跡線に接続しますので、県道及び市道の整備につきまして、地元住民の皆様方のご理解とご協力を得ながら引き続き関係当局にお願いしていきたいと思います。

県道出雲平田線改良促進協議会
会長　小村　貞雄
（川跡自治協会　会長）

迎春リースづくり　12/18　参加者２０名　**ふれあい交流部**

今年度で３回目となる迎春リース作りを開催。スタッフが編んだ大きなかづらを土台としてどんぐりや木の実、水引などを自由に飾り付けされました。今回初めての方が多く参加され、初対面の方同士の交流もあり、楽しい時間を過ごしました。思い思いに飾り付けをした世界に一つだけの作品ができました。

【参加者の感想から】

★初回の参加でした。最初はどのように配置をしていいのかわからず、困りましたが、担当の方の適切なアドバイスで何とかしあげることができました。とても楽しい時間を過ごすことができ、初対面の方とも話すことができ本当によかったです。何よりも材料を準備していただいた方々に感謝、感謝です。ありがとうございました。

★今日ははじめて参加させて頂きました。初対面の方とも仲良く、楽しい時間を過ごさせて頂き、素敵なリースを作る事が出来ました。リースの材料をそろえ準備してくださったスタッフの方に感謝です。お世話になりました。

ありがとうございます

〈香典返しとして〉
▼川跡自治協会・川跡地区社会福祉協議会・川跡長生会へ
金一封
○小村　裕　様（故・ユミ子様）［武志中組西］
○中尾富恵　様（故・裕様）［中野程原］
○池尻　巌　様（故・文子様）［中野美保七］
▼川跡自治協会・川跡地区社会福祉協議会へ金一封
○鎌田庄一　様（故・誠様）［稲岡協生三］
（R４・１・５現在）
ご芳志ありがとうございました

ボランティアありがとうございます

★12月19日　北陽サンズバスケットボールスポ小の児童、保護者の皆さんが中会議室、廊下、下駄箱、トイレ、窓ふき等の清掃作業をしてくださいました。

★12月24日　長生会の皆様にコミセン館内・外回りを清掃して頂きました。

おかげさまできれいな環境で新年を迎えることが出来ました。ありがとうございました。

長生会の皆さん

北陽サンズの皆さん

エコキャップ運動　12/10　**川跡幼稚園　そら組さん**

「おはようございます」の大きな声であいさつをして、大きな袋が満杯になるほどのたくさんのエコキャップを持って来てくださいました。「エコキャップをお薬に変えてください」とお願いされました。どうもありがとう。

地域の方々や川跡幼稚園、ほくよう保育園の園児のみなさんが家庭で集めてくださったペットボトルのキャップ９袋（約36,000個）を発送しました。

エコキャップ運動の目的は、「再資源化を促進し、ＣＯ２の発生を抑制」、そしてキャップの売却益で「世界の子どもたちにワクチンを届ける」ことです。

今回は約36,000個のキャップで世界の子どもたち45人分のワクチンになり尊い生命が救えることになります。

エコキャップ運動は子どもからお年寄りの方までどなたでも簡単に参加でき、社会貢献できる取り組みです。

ぜひペットボトルのキャップを持ってコミセンにお越しください。

川跡地区同和教育講演会　１２月１２日（日）参加者３８名

講師：鳥取県琴浦町教育委員会赤碕文化センター館長　西村敦郎氏

演題：「差別は誰が傷つき、だれを不幸にしている？」

被差別部落に生まれられ、自らの体験談を話された講演会でした。学ぶことの大切さを改めて痛感させられました。

【参加者の感想から】

★正しい知識をきちんと学ぶこと。自分でよく考え判断できるようになること。発言を含め行動に態度に示せるようになること。変えることはできないと思います。誰も弱いから。でも、変えていこうと思うこと。変えていこうとすることを誰もが学んでいけば。小さいことでも。少しでも。

★自分の体験や今実際にもどんな事が起きているのか聞かせていただき、ショックな思いがしています。インターネットを使った差別はやっている者は自分は正しいと思っているということ。１回アップロードされてしまうと取り返しがつかないというこわさがあるのだと再認識させられました。自分が差別をしないと思うのはもちろんですが、他の人にも言わなければならないと思いました。

★リアリティ（現実味）のある事例ばかりで、貴重な研修となりました。人権同和教育は幼少期から大切な学びであると改めて思いました。一人一人が大切な命であり、誰からも否定されてはならないと思います。講演の中で「孤立させない」「コミュニティが大切」ということを聞き、この川跡地区でも人と人とがつながりをもち、互いを認め合える地域であることが大切であると思いました。ありがとうございました。

★差別は他人をおとしめ、自分自身までおとしめる。差別は、それは私たちの日常の暮らしの中で形を変えながら今も繰り返されている。人権同和教育の大切さをこの講演を聞きしみじみと感じることができた。次の世代の子どもたちにもしっかりと学んでいってほしいと思います。ネット社会の中で生きづらさを感じる子どもたちにもしっかり学んでほしいです。